# 平成 1 5 年度 病害虫発生予察 特殊報 第 1 号

病害虫名: プラタナスグンバイ

Corythucha ciliata (SAY)

対 象: プラタナス

## 1.特殊報の内容

プラタナスグンバイによるプラタナスへの被害と分布拡大を都下で確認した。

### 2. 発生経過

- (1) 本種の我が国での発生は、2001年9月に愛知県名古屋市の港湾地域に植裁されていたプラタナスで初めて確認された。その後、同年10月には東京都港区、神奈川県横浜市中区、静岡県清水市、愛媛県松山市、福岡県北九州市の港湾地域や周辺の市街地でも確認された。いずれも、発生密度は低かったと報告されている。
- (2) 2003年9月に都建設局第3,第4建設事務所から中野区,文京区内の街路樹として植裁されているプラタナスの葉を吸汁害している虫が同定依頼のため病害虫防除所に送付された。立川市でも葉が白化する現象が2002年秋に見られていたが,2003年7月頃になって再び目立っていた。このため8月にプラタナス(モミジバスズカケノキ)を調査したところ多数のグンバイムシ幼・成虫を葉裏より採集した。中野区および文京区で採集された個体もこれと同種であった。
- (3) 立川市で採集した幼・成虫の写真を埼玉大学教育学部生物学研究室,林正美博士に送付したところ標記と同定された。
- (4) 現在までに本種のプラタナスの被害を確認した地域は以下の通りである。港区,新宿区,中野区,文京区,渋谷区,東村山市,小平市,東大和市,立川市,八王子市,青梅市(第1図)。調査未実施地域も多いが,主に街路樹として利用されているプラタナスで本種は都下広く分布を拡大していると考えられる。

## 3 . 形態 (第2図;成虫·幼虫)

- (1) 体長: 雌成虫約 3.7mm, 雄成虫約 3.5mm。
- (2) 成虫は全体的に乳白色,頭部は胸部の帽状部に覆われて見えない。帽状部下方の前胸背板は黄褐色。前翅のやや前方の中央よりに明瞭な黒褐色紋を有する。
- (3) 終齢幼虫は黄褐色で頭部全体,前胸背の一部,翅芽の基部および腹部中央は暗色を呈する。頭部 背面,腹部背面中央に太くて鋭い棘状の突起を有する。

## 4.生態・分布

- (1) 北米原産。近年ヨーロッパや韓国に侵入し、分布を拡大している。プラタナスのほかクルミ科、ブナ科、クワ科、マンサク科、スズカケノキ科、トウダイグサ科、カエデ科、モクセイ科で寄生の記録がある。
- (2) 1世代に1~2ヶ月を要し,アメリカでは年2世代チリやイタリアでは3世代を繰り返す。都下でも3世代ほど繰り返すと思われる。
- (3) 粗皮下などでまとまって成虫越冬する(林博士私信)。立川周辺のプラタナスでは10月中旬には樹幹

部の粗皮下へ成虫が移動しはじめ、落葉の始まった11月上旬にはほとんど葉裏に見られなくなった。

### 5.被害 (第3~4図)

- (1) 葉裏に成虫・幼虫とも寄生し加害する。吸汁により葉の表面に脱色斑が現れ,寄生が多いと葉が白色 ~ 黄白色に見える。また,葉裏は排泄物により汚れる。寄生が著しいと樹幹全体が白味を帯び,美観が著しく損なわれる。
- (2) ヨーロッパやアメリカ合衆国では加害により早期に落葉することがあるとされる。韓国では大発生しているにもかかわらず早期落葉・枯死は見られない。最初に確認された名古屋市の密度の高い地点においても、それらは認められていない。
- (3) 立川周辺ではプラタナスは街路樹,公園樹としてかなり多く利用されている。7月ごろより葉の白化が目立ち始めたが,早期落葉は認められなかった。

## 6. 防除対策および注意

(1) 樹木類(木本植物)のグンバイムシ類に対してスミチオン乳剤(1000 倍,6回以内)の登録があるので,飛散に十分注意して使用する。なお,防除対策などの問い合わせは病害虫防除所に連絡のこと。

#### 7.参考資料

井上智雄(2002) 小さな市民 217. プラタナスグンバイ 広報しまだ 14.5.1:16.

時広五朗·田中健治·近藤圭(2003) 我が国におけるプラタナスグンバイ(新称) Corythucha ciliata (SAY)の発生. 植物防疫諸調査研究報告 **39**:85-87.

## 8.図:第1~4図



第1図 発生が確認された地域



第2図 成虫と幼虫(Scale bar: 3mm)



第3図 被害樹



第4図 被害葉